



ショートコメント

★★★★

Data 2022-139

監督：ギレルモ・デル・トロ  
／マーク・グスタフソン

原作：カルロ・コッローディ  
『ピノッキオの冒険』

出演：ユアン・マクレガー／  
デヴィッド・ブラッド  
リー／グレゴリー・マン

# ギレルモ・デル・トロの ピノッキオ

2021年／アメリカ映画  
配給：Netflix／116分

2022（令和4）年12月10日鑑賞

シネ・リーブル梅田

## 👁️👁️ みどころ

『白雪姫』などと並ぶ、カルロ・コッローディ原作の有名な童話『ピノッキオの冒険』は、イタリア生まれ。『星に願いを』の名曲で有名なディズニー映画『ピノキオ』は、1940年の名作だ。

しかし、『ギレルモ・デル・トロのピノッキオ』と題された本作は、「知ってる話だと思うかもしれないが違う。別物さ・・・」とギレルモ・デル・トロが語るとおり、“誰も見たことのないピノッキオ”の物語！

さあ、愛する一人息子カルロの死を悲しむゼペットじいさんの前に登場した木製のわんぱく坊主、ピノッキオの、そんな物語をたっぷり楽しもう！

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* —

◆私は本作と同じ日に、“特殊効果の神様”とか“ストップモーション特撮の神様”と呼ばれているフィル・ティペット監督の『マッドゴッド』を観た。同作は、「人類最後の男に派遣され、地下深くの荒廃した暗黒世界に降りて行った孤高のアサシンが、無残な化け物たちの巣窟と化したこの世の終わりを目撃する」ものだ。

しかし、“ストップモーション特撮の神様”は、フィル・ティペット監督だけではなく、マーク・グスタフソンもそうらしい。他方、ギレルモ・デル・トロ監督は、『パンズ・ラビリンス』（06年）『シネマ16』（392頁）や『シェイプ・オブ・ウォーター』（17年）『シネマ41』（10頁）等で有名な鬼才！そんな両者が組んで、「ピノッキオ」を現代に蘇らせると、本作のような映画に！

◆原作は、有名なカルロ・コッローディの『ピノッキオの冒険』だ。「ピノッキオほど私と深い関わりを持つキャラクターは歴史上存在しなかった。私は物心がついた頃から、この映画を作りたいと強く願っていたんだ」とギレルモ・デル・トロ監督は語っている。

そんな彼は、カルロ・コッローディの『ピノッキオの冒険』とメアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』との間に、共通するテーマ（善悪の判断や道徳、倫理、愛情、生命

といった人間らしさを形作る要素を自らの力で見つけ出すことを望む父親によって生み出された「子供」が現実世界に放り出される)を感じていたため、『フランケンシュタイン』に影響を受けて、本作はゴシック調に演出されている、そうだが、さて・・・？

◆私の記憶では、原作のタイトルは、『ピノッキオの冒険』ではなく『ピノキオの冒険』。また、『星に願いを』の曲で有名な1940年のディズニー映画『ピノキオ』に登場したピノキオは、おもちゃ職人のゼペットが作った「操り人形」だったはずだ。もっとも、そのストーリーはほとんど覚えていないが、原作とディズニー映画との相違は？そしてまた、それらと『ギレルモ・デル・トロのピノッキオ』と題された本作との異同は？

◆『白雪姫』では、自分が世界で一番美しいと信じている継母から白雪姫が毒入りりんごを食べさせられるエピソードが有名だが、『ピノキオ』ではピノキオが嘘をつくたびに鼻が伸びていくというエピソードが有名。それはかなり重要な教訓だが、なぜ子供向けの童話にそんな小難しい、お説教めいたエピソードが出てくるの？

また、本作の舞台はムッソリーニが支配するファシズム時代のイタリアに設定されているが、それは一体なぜ？さらに、子供向けの童話なら、死んでしまったゼペットの一人息子カルロの墓のそばの木から生まれた人形を、なぜ最初からカルロのようないい子に設定せず、出来の悪いわんぱく坊主(?)に設定したの？そんな疑問が次々と湧いてくる。

◆童話は本来、単純なものだが、前述のように本作はそうではなく、本作のストーリー構成は童話の範疇を超えたものになっているから、それをしっかりフォローしたい。ちなみに、ゼペットもピノキオも、原作では巨大なサメに、1940年のディズニー映画ではクジラに飲み込まれてしまっていたが、さて本作では？

そんなハラハラドキドキのストーリー展開に注目しながら、本作ラストに示される“教訓”もじっくり頭に刻み込みたい。

2022(令和4)年12月13日記